岡山市地球温暖化対策実行計画

【概要版】

この計画について

本編 p. 1～

■ 位置づけ

- この計画は、市民・事業者・行政を含む岡山市全体で、気候変動対策を一体的に進めるための計画です。
- 法的には、「地方公共団体実行計画（区域施策編）」、「地方公共団体実行計画（事務事業編）」及び「地域気候変動適応計画」に位置づけられます。

■ 計画期間

- 2026～2035 年度（10 年間）

■ 温室効果ガス削減目標の年度

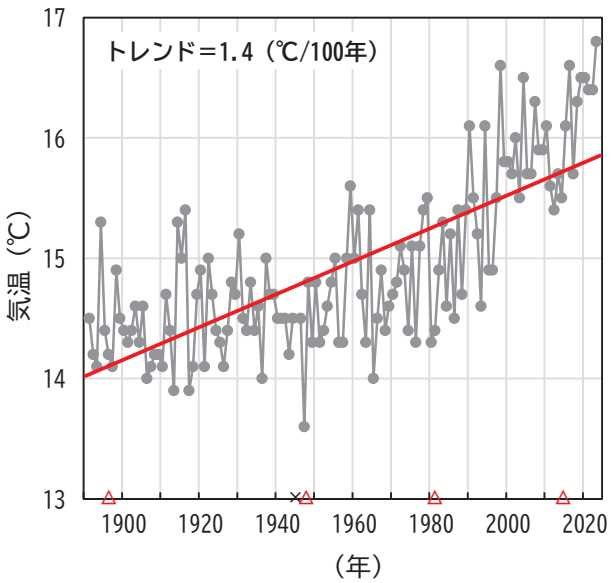
- 基準年度：2013 年度
- 目標年度：2030 年度・2035 年度　※岡山市域については、参考として 2040 年度の水準も示します。

地球温暖化はどこまで進んでいる？

本編 p. 4～

地球温暖化は、遠い未来の話ではなく、既に岡山市でも変化として現れています。

- 二酸化炭素などの温室効果ガスは、大気中の濃度が増え続けています。
- その結果として気温が上昇し、岡山市でも年平均気温が上昇しています。
- また、岡山市の猛暑日（最高気温 35℃以上の日）の日数は、2025 年に観測史上最も多い 48 日を記録しています。
- 将来、化石燃料に依存した発展が続いた場合、岡山市の年平均気温はさらに上昇し、猛暑日の日数も増加すると予測されています。
- 気候変動の影響は、既に農業や水産業、自然災害、健康など、私たちの暮らしに関わる分野に現れ始めています。



【岡山地方気象台における年平均気温】

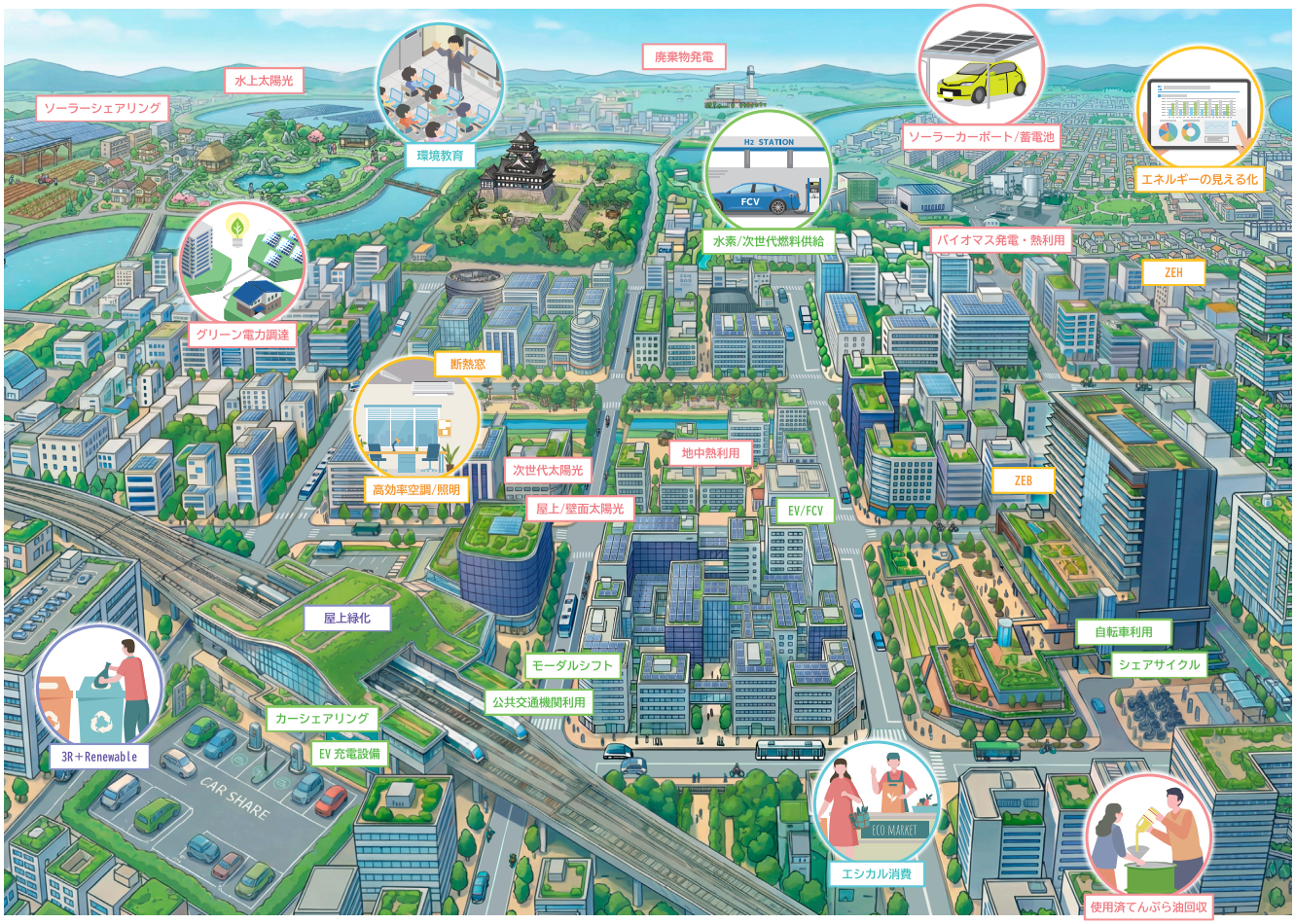
（出典）気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）
(https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/jma-obs/index.html)

温室効果ガス削減に向けた目標

本編 p.18～

■ 2050 年の岡山市の将来像

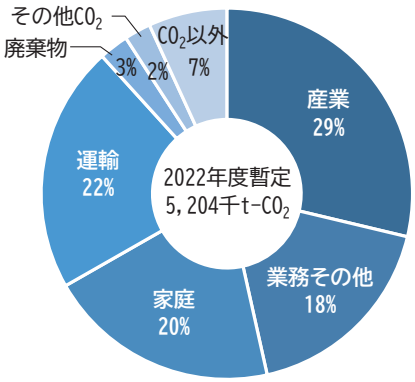
- 岡山市は、2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ(ゼロカーボンシティ実現)を目指しています。
- 資源や技術を活かし、あらゆる場面で脱炭素につながる取組が広がる将来像を目指します。



再エネ	・新しい技術も活用し、設置可能なあらゆる場所(屋上・壁面・カーポート・農地・ため池等)に太陽光発電設備等が設置され、再生可能エネルギーが最大限に導入されています。 ・蓄電技術によって、再生可能エネルギーが効率的に活用されています。 ・使用済てんぷら油や生ごみ、間伐材や農作物残さなどのバイオマスが、市内でエネルギーとして活用されています。 ・グリーン電力が積極的に選択されています。
省エネ	・住宅や建築物について、断熱化や自然採光等による省エネルギー化が進み、ZEH や ZEB が一般化しています。 ・高効率空調や高効率照明等の省エネ性能の高い設備の導入や、エネルギーの見える化による運用改善が図られ、大幅な省エネが進んでいます。
スマートムーブ	・公共交通機関や、徒歩・自転車で移動する人が増えています。 ・自動車は、EV・FCV や次世代燃料で動く車に転換しています。 ・EV 充電設備や水素ステーション、次世代燃料を供給する場所等の脱炭素型の自動車移動を支えるインフラが整備されています。 ・貨物輸送をトラックから鉄道等に転換するモーダルシフトが一般的となっています。
地域社会	・コンパクトでネットワーク化されたエネルギーシステムの効率化につながる都市づくりが行われています。 ・緑化が進み、冷暖房の負荷が軽減されています。 ・3R＋Renewable の取組が進められ、限りあるエネルギーや資源が循環するしくみができています。
市民・事業者の行動	・環境教育や環境イベントへの参加によって、価値観や行動の変容がもたらされています。 ・環境ラベルに基づく選択や地産地消など、エシカル消費が行われています。

■ 岡山市域の温室効果ガスの状況

- 2022 年度の温室効果ガス排出量は 5,204 千 t-CO_2 で、温室効果ガスの種類別では、二酸化炭素(CO_2)が全体の 93%を占めています。
- 部門別の割合は、産業部門(製造業等)が約 3 割と最も大きく、業務その他部門(商業・サービス業等)・家庭部門・運輸部門がそれぞれ約 2 割を占めている状況です。
- 森林等による吸収量を差し引いた温室効果ガス排出・吸収量は、2022 年度に 5,141 千 t-CO_2 となり、基準年度比で 21.7%減少しています。

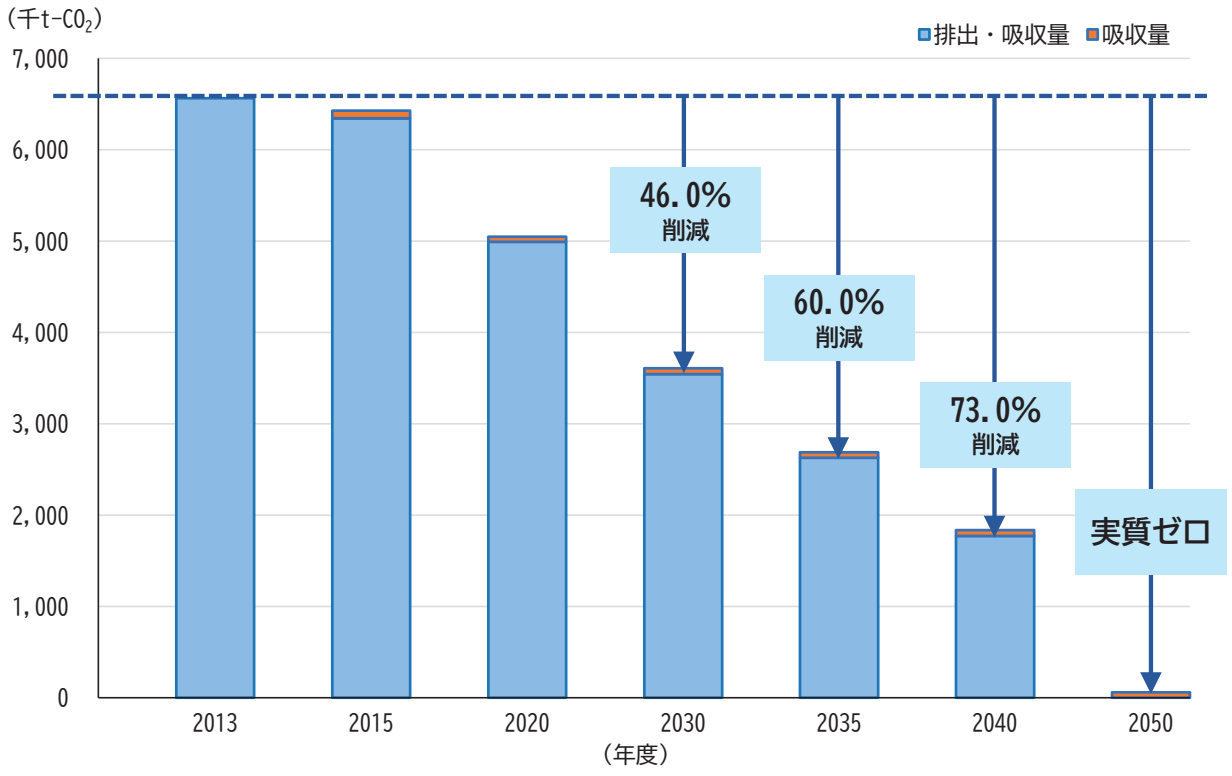


【岡山市域の温室効果ガス排出量】
(2022 年度暫定値)

■ 岡山市域の温室効果ガス削減目標(基準年度比)

2030 年度 温室効果ガス排出・吸収量 46.0%削減
2035 年度 温室効果ガス排出・吸収量 60.0%削減
長期目標:2050 年度 実質排出量ゼロ

(参考) 2040 年度 温室効果ガス排出・吸収量 73.0%削減



【岡山市域の温室効果ガス削減目標】

岡山市の気候変動対策

本編 p.38～

■ 気候変動対策の全体像

- 岡山市では、温室効果ガス削減（緩和）と気候変動の影響からの回避・軽減（適応）の両方の対策に、市民・事業者の皆さまとともに取り組みます。
- なお、緩和の取組（施策①～⑥）のうち「⑤市民・事業者の行動変容の促進」と「⑥岡山市役所における率先行動」については、他の取組を効果的に進めることにつながる基盤部分であり、2030 年度まで特に重点を置いて進めるものとします。

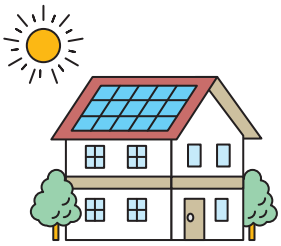
施策 ① 再生可能エネルギーの導入促進

太陽光発電などの再生可能エネルギー設備の導入を進めるとともに、購入する電力についても、再生可能エネルギー由来の電力を積極的に選択する取組を広げていきます。



主要な取組

- **太陽光発電設備の導入促進**
- **廃棄物由来のバイオマスエネルギーの利用促進**
- **その他の再生可能エネルギーの導入促進**
- **グリーン電力の導入促進**



成果指標	現状（2024 年度）	目標（2030 年度）	目標（2035 年度）
市内の太陽光発電設備の導入量	420 千 kW	473.9 千 kW	591.8 千 kW

施策 ② 省エネルギーの推進

住宅・建築物や設備等の省エネルギー化を進めるとともに、エネルギー使用量を「見える化」することで省エネ行動の定着を図り、暮らしや業務におけるエネルギー利用の効率化を進めていきます。



主要な取組

- **省エネルギー性能の高い設備・機器の導入促進**
- **省エネルギー性能の向上等による建築物の脱炭素化の推進**
- **エネルギーの見える化の推進**



成果指標	現状（2022 年度）	目標（2030 年度）	目標（2035 年度）
市内のエネルギー消費量	51,687 TJ（暫定値）	45,431 TJ	40,058 TJ

※各施策には、持続可能な開発目標（SDGs）との関連を示すため、アイコンを配置しています。（図出典：国際連合広報センター）

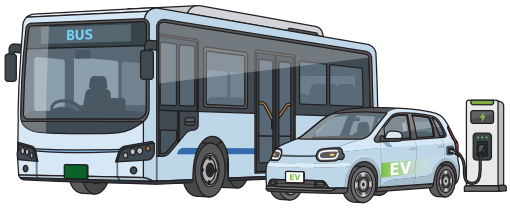
施策 ③ スマートムーブの推進

公共交通や自転車、徒歩などへの移動方法の転換を進めるとともに、次世代自動車やエコドライブの普及等により、移動に伴う温室効果ガスの排出を減らしていきます。



主要な取組

- **自動車利用の抑制・転換の推進**
- **次世代自動車の普及促進**
- **エコドライブの普及促進**



成果指標	現状(2022 年度)	目標(2030 年度)	目標(2035 年度)
自動車利用による ガソリン・軽油の消費量	449,859 kl (暫定値)	323,989 kl	235,168 kl

施策 ④ 地域連携の推進

行政・市民・事業者など、様々な主体が連携し、資源を大切に使う社会の構築や、脱炭素型の都市づくり、エネルギーの地産地消などを進めるとともに、他の地域との連携などを通じて、ゼロカーボンシティの実現につなげていきます。



主要な取組

- **循環型社会の推進**
- **脱炭素型の都市づくり**
- **エネルギーの地産地消の推進・自立分散型社会の推進**
- **水素社会の構築**
- **フロン排出抑制法の遵守**
- **脱炭素社会の実現に向けた新技術の推進**
- **他自治体との連携**
- **国際協力・国際理解活動の支援**



成果指標	現状(2024 年度)	目標(2030 年度)	目標(2035 年度)
市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量	713 g	658 g	628 g

施策 ⑤ 市民・事業者の行動変容の促進

暮らしやビジネスでの脱炭素につながる取組を広げるとともに、環境教育・環境学習を進めます。あわせて、J-クレジット制度の活用や自主的な地球温暖化防止活動への支援を通じて、市民や事業者の主体的な取組を後押しします。



主要な取組

- **脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルへの転換促進**
- **環境教育・環境学習及び ESD の推進**
- **J-クレジット制度の利用促進**
- **地球温暖化防止活動に関する自主的な取組への支援**
- **CO_2 排出量や削減効果の見える化の推進**



成果指標	現状(2023 年度)	目標(2030 年度)	目標(2035 年度)
地球温暖化防止行動の実践度 (市民意識調査)	56.5 %	65%	70 %

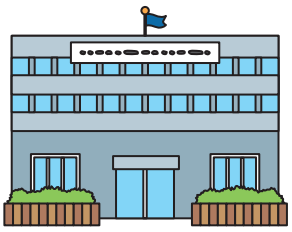
施策 ⑥ 岡山市役所における率先行動 (事務事業編)

市有施設への太陽光発電や再エネ電力の導入、省エネルギー化や公用車の電動化など、これまでに掲げた施策について、行政が自ら率先して行動し、市域における取組の広がりにつなげていきます。



主要な取組

- **市有施設への太陽光発電設備等の導入**
- **再生可能エネルギー電力の調達**
- **市有施設の省エネルギー化の推進**
- **公用車の電動車への転換**
- **脱炭素行動の実践**



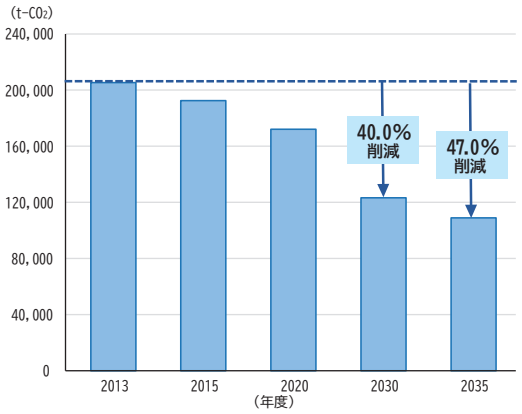
成果指標	現状(2024 年度)	目標(2030 年度)	目標(2035 年度)
市有施設への太陽光発電設備の 導入率	41.0 %	50 %	75 %
使用電力に占める 再生可能エネルギーの割合	14.3 %	60 %	70 %
施設照明の LED 照明の導入率	14.8 %	100 %	–
公用車における電動車の導入率	11.1 %	100 %	–

岡山市役所の削減目標

岡山市役所では、公共施設の稼働や、ごみの焼却等の業務に伴い、温室効果ガスの排出が生じています。市役所の温室効果ガス排出量については、下記のとおり削減目標を定め、各種取組による削減を進めていきます。

岡山市役所の温室効果ガス削減目標（基準年度比）

2030 年度　温室効果ガス排出量　**40.0%削減**
2035 年度　温室効果ガス排出量　**47.0%削減**



【岡山市役所の温室効果ガス削減目標】

施策 7　気候変動の影響への適応

気候変動の影響は既に様々な分野で現れており、今後の地球温暖化の進行によって影響が大きくなるおそれがあります。こうした影響による被害を防止・軽減するため、気候変動の影響への適応を進めていきます。

分野	懸念される主な影響	主要な取組
農業・水産業	農作物の収量や品質の低下 ノリの生育不良	● 農作物対策 ● 水産物対策
水資源	渇水	● 水源・水質対策 ● 水利用対策
自然生態系	外来種の侵入・定着 生態系の変化による種の絶滅	● 生態系の保全 ● 森林の保全
自然災害	洪水、内水、土砂災害及び高潮・高波による被害	● 防災・減災対策
健康	熱中症搬送者数の増加 感染症媒介生物の活動期間の長期化	● 熱中症対策 ● 感染症対策
市民生活・都市生活	都市生活の快適さへの影響 インフラ・ライフラインの機能停止	● ヒートアイランド対策 ● インフラ整備

指標	現状(2024 年度)	目標(2030 年度)	目標(2035 年度)
下水道浸水重点対策整備率	49 %	67 %	100 %
クーリングシェルターの登録施設数	104 施設	150 施設	190 施設
市街化区域の緑被率	11.1 %	9.4 %	11.1 %

私たち一人ひとりの具体的なアクション

ここでは、私たち一人ひとりが取り組める行動の例を紹介します。できるところから取り組んでいきましょう。

≪ 温室効果ガスを減らす ≫

- ☐ 非常時の安心にもつながる、太陽光発電や蓄電池を住宅・事業所に設置する
- ☐ 冷蔵庫やエアコン等の買い替え時には、省エネ家電を選ぶ
- ☐ 断熱性能の高い住宅・事業所を購入したり、窓のガラス交換や内窓設置などの断熱リフォームを検討したりする
- ☐ 公共交通機関や徒歩、自転車で移動する
- ☐ 買い物の際に、バイオマスプラスチックなどの環境にやさしい素材の製品を選ぶ
- ☐ 地産地消を心がけ、食べ残しを減らす



≪ 気候変動に備える ≫



- ☐ 自宅や事業所の周りの災害リスク・避難経路等を確認する
- ☐ 水や食料、日用品を普段から使いながら備えておく
- ☐ 雨水を貯めておき、水やりなどに利用する
- ☐ 暑さ指数の情報を活用し、体調を考慮した行動をとる
- ☐ 熱中症予防のために、作業場所や休憩場所の環境を整える
  （危険な暑さから避難できる施設(クーリングシェルター)も確認してみよう！）
- ☐ 屋上や壁の緑化に取り組む



岡山市地球温暖化対策実行計画【概要版】
2026 年 3 月

発行　岡山市
編集　岡山市環境局環境部ゼロカーボン推進課
〒700-8554　岡山市北区大供一丁目 2 番 3 号
TEL　　：086-803-1282
E-mail　：zero-carbon@city.okayama.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。